

石巻市内の現在の状況

3月11日に発生した東日本大震災から既に6カ月以上が経過し、石巻市内も市街地をはじめとして、落ち着きを取り戻しています。最近まで、津波により甚大な被害を受けた沿岸部はもとより、市街地のあちらこちらに浸水のため使用できなくなった電化製品や机・椅子・ソファ、日用品などさまざまな物が、がれきや汚泥とともに廃棄されていました。現在は、自衛隊やボランティアの方々の尽力により、がれきなども指定された場所に集められ、市街地での市民生活には支障のない状態となっています。

なお、ライフラインについては、被害の甚大であった沿岸部などを除き、大震災後1カ月以内に電気・電話・上下水道が復旧し、最も遅かったガスの供給についても、4月中には復旧しました。

また、仙台と石巻を結ぶ主要な公共交通機関であるJR仙石線は、被害の甚大であった沿岸部の一部区間（高城町⇔矢本間）において復旧の目処が立っていません。現在は、バスによる代行運転を行っている他、迂回路線や臨時ダイヤによる高速バス（仙台⇔石巻）も運行されていますが、一日も早い復旧が待ち望まれます。

このような状況の中、被災地域での本格的な復興は、まだ始まったばかりといえます。

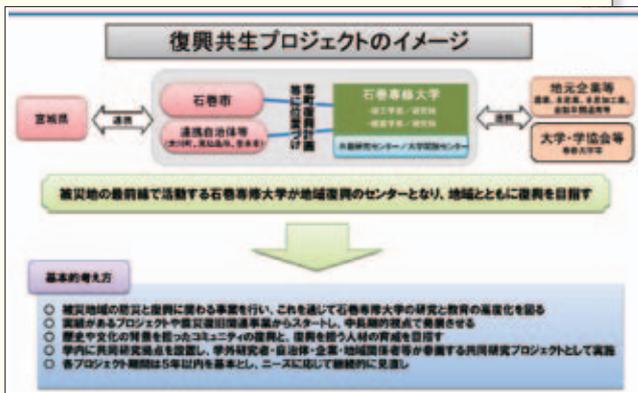


現在の石巻港沿岸部



石巻専修大学の地域復興に関する取り組み

被災地の最前線で活動する石巻専修大学は、地域復興のセンターとなり、地域とともに復興を目指しています。実績のあるプロジェクトや震災復旧関連事業からスタートし、中長期的視点で発展させる「復興共生プロジェクト」を平成23年4月に発足、次世代を担う人材の育成に向けた取り組みを目指しています。このプロジェクトをイメージ化したものが、以下の図となります。



なお、現在「復興共生プロジェクト」として大学全体による取り組みの他、共創研究センターや大学開放センター、経営学部『地域活性化研究会』としての取り組みも行われており、地域復興の中心となって幅広く貢献しています。



現在の旧北上川沿岸部



新連載

石巻専修大学事務課 発

石巻復興 Report

1

石巻専修大学復興共生プロジェクトのホームページはこちら

<http://www.isenshu-u.ac.jp/fukkou/>

